

第一回植樹祭・苗畠開園式盛大に挙行 平成梅林実現へ第一步！

本の成木と和歌山県みなべ町から贈られた南高梅の成木がご来賓の方々と会の関係者によつて植樹されました。

続いて、苗畑に移り開園式を行いました。ご来賓および募金事業協力者によるテープカット式を終わり、その後、一般の参加者も加わって仮植されてい



開園式パーティーテープカット

第一回植樹祭・開園式

とも
たの
偕樂園公園を
愛する市民の会



第3回民間交流協議会
玄垣案する漆原会長

第二回 通常総会

第一回品種三〇〇本の苗木を支柱に固定する作業を行いました。苗畑は来年度の第二回植樹祭でさらに二〇〇品種が加わり、数年間育成を予定していますが、苗畑の土質が悪く排水不良のため、今後の生育が懸念されます。

植樹祭と開園式には、和歌山県みなべ町山田五良町長、東京小石川後楽園庭園保存会から末正明理事長、金沢城・兼六園研究会から本田博幹事が出席され、全体で三〇〇名を越える参加者があり、市民の偕楽園公園を愛する気持ちの大きさを改めて実感しました。参加者には、記念品として昨年会が作った「偕楽園の昔梅干」が配られました。

この行事に先立つて一月十七日に県庁で記者会見が行われ、植樹祭や平成梅林整備事業がマスコミで報道されました。

畑管理を年数回梅ボランティアによつて実施することなどが含まれています。(四面参照)

最後に事業を円滑に進めるために副会長と理事を増員する会則改正が提案され、承認の後、新役員の選出が行われました。

(四面に名簿掲載)

入会の御案内

- ◆本会の行事に参加できます。会誌をうけとれます。
 - ◆随时入会を受け付けます。
申し込みは事務所あるいは知り合いの役員まで。
 - ◆会費は年1千円

事務所：水戸市末広町2-2-10
祐月本店内 TEL310-0053
Tel: 029-222-1117
Fax: 029-222-1116
ホームページ
<http://www.kairaku-en.jp/>



認定書にサイン

ターで本会を「茨城県公園サポート」に認定する式典が行われました。この制度は、環境美化活動を支援し、よりよい環境の保持、園内で活動するボランティア団体を登録するもので、本会は偕楽園公園では六番目の団体として、主に苗畑の管理事業を担うことになります。

記念講演「梅の魅力」

行事報告



講演する北村氏

村信正
よしまさむら
入学卒業。
職後緑地園

日本梅の会会長　北村信正
一九一四年水戸市生まれ、旧制
水戸高校、東京帝国大学卒業。
東京都公園課長を退職後緑地闘
争団体の役員を歴任。

第二回総会の記念講演会として、日本梅の会会長北村信正氏及び同会副会長大坪孝之氏が、「梅の魅力」についてそれぞれの立場から講演されました。

愛惜梅花思考

水戸は梅に縁が深い土地柄です。二代義公（光圀）は梅を愛する人でした。儒学を学ぶために招かれ朱舜水は梅を尊重する中国の明出身でした。大日本史編纂を行なう彰考館に難波梅が一六九八年に植えられ、義公の生涯は「梅里先生碑」にまとめられています。

九代烈公（齊昭）は弘道館・偕楽園を作っていますが、梅を重視しました。弘道館に「種梅記」の碑を建て、偕楽園は梅林を主題に構成されました。偕楽園には、全

国の大名から梅を始め多くの樹木が贈られています。六銘本を定めたのは昭和初期でしたのが、最初

梅の魅力について

日本梅の会副会長 大坪 孝之
一九三九年広島県生まれ。元東京農業大学助教授。果樹学専攻。
著書・『よくわかる栽培』12か月「ウメ」N.H.K出版、「梅」(共著)主婦の友社。「家庭で楽しむ果樹づくり」家の光協会ほか。

梅の本場中国では、古くから梅が愛されています。梅の生育に適している南部（長江流域）が発展していく唐・宋時代には特にモテはやされ、范大成の『梅譜』（一〇四年）などが著されていました。国のは花にしようという声もありますが、決つてはいないうえです。梅にちなんだ文化も、漢詩や詩歌の文芸、「鉢の木」など多くの演目がある能楽、多くの有名な句がある俳諧など語るべきことは少なくありません

から多くの品種があつたのです。日本の梅は古代に遣唐使によつて大陸から伝來したとされています。中国語の烏梅（ウーメイ）という読みが「ウメ」になつたのだそうです。梅は「好文木」として学問を象徴する樹木ですが、菅公（菅原道真）と強く結びつけて考えられています。太宰府の飛梅など各地の天満宮（天神）に梅が多く植えられ、観光名所になつてゐるのはそのためです。

て咲く梅、日本人の精神文化に根付く、(3)花も実も楽しめ、日本人の生活に深くかかわる、などいろいろな魅力があります。梅について普通(2)の魅力を中心に言われるのですが、今日は(3)を中心にはります。それは、庭のある家には一本くらい梅があり、おにぎりに梅干し、梅酒、あるいは料理の塩梅(あんばい)という言葉など、これほど日本人の生活に密着している樹木はないからです。

梅には多くの品種があります。園芸学的な分類では、実梅と花を楽しむ花梅に大きく分けられます。さらに花梅では古くから性による分類が行われています。品種は、別紙の図のように花、枝などの特徴から区別するのですが、ややむずかしいのです。品種名も同名異種、あるいは異名同種があるなど検討が必要な状況です。

A photograph of a man in a dark suit and tie, standing at a podium and speaking into a microphone. He appears to be giving a speech or presentation.

がよい。白難波、八重野梅、八重
寒紅などがお奨めです。

果実の利用という点では、梅の
実は健康食品の代表で、果実から
は有機酸が摂取できることにあり
ます。毎日コンスタントに酸味を
とる、すなわち梅干しを一～二個

講演後、演壇に陳列された各種の梅を前に質疑と歎談が交わされました。

質疑応答と歓談など

実梅の推奨品種は南高、梅郷などで、白加賀など花粉のない品種は他の花粉のある品種を二本植え
るか、接ぎ木をします。
栽培のポイントなど多数ありま
すが、配布資料をご覧ください。

行事報告

季節色々！偕楽園めぐり



九月二十五日 午後三時～五時
偕楽園センター→梅桜橋→吐玉泉→見晴らし広場

セントー前には三十人を超す会員たちが集まりました。かなりが講師の安先生のファンであるように見受けられる若い女性たちで、華やいだ空気がありました。会長の挨拶の後早速出発です。

出発したと思ったら、すぐにセントー入り口のむくげの前で説明です。むくげは「一日花」であること、葉のつきかたに対生と互生があること、葉の出るところから花が咲くこと、花は、最初の葉が萼になります。次に花弁になり、次におしべ、最後の葉がめしべになる」と、花を解剖しながらの説明です。

こういう調子で、道辺の植物一つ一つの前で説明が続きます。丸山のふもとは「おみなえ」があり、もつとも自然の植物の姿が残っています。

九月二十五日 午後三時～五時
偕楽園センター→梅桜橋→吐玉

秋の野の花をめぐる

さまざまな植物の説明はありました。が省略して、梅桜橋をわたって本園内に入ります。

吐玉泉の下、丘ふもとに小流がありますが、そこには絶滅危惧種に指定されている水草があるが、その由来がはつきりしないので指定されていないこと、流れの中や岸辺には外来種を含めて多くの植物が見られることなどが、話されました。偕楽園には日本タンポポが残っているそうです。

最後に見晴らし広場に出ると、ほぼ五時ころ。中秋の名月の行事が色々行われていた。人出もあり、にぎやかです。ここで解散しましたが、距離にするとごくわずかなのにたくさん植物の姿に触れ、飽きない二時間でした。

晴れやかに輝る中秋の名月のもと、散会後参加者はお茶の行事や散策に散らばっていきました。充実した一日を過ごせました。

豊かな秋色変化は 偕楽園ウォーキングで

十一月二十四日(土)九時～十二時
桜川駐車場→好文橋下→徳川博物館横→もみじ谷→護国神社裏
→県立歴史館→偕楽園→桜川駐車場

晴天の下、通常の観光とは違ったコースに出発です。徳川博物館横ではモミジや菊の秋色が楽しめます。

ました
が、庄
巻はも
みじ谷
と歴史
館。紅
葉のモ
ミジと
黄葉の
銀杏が
競い合
うよう



もみじ谷にて

大名庭園サミット 大名庭園民間交流岡山大会

十月五日～六日に、岡山市において第二回大名庭園民間交流協議会の行事が開催されました。最初の幹事会で、次年度は水戸で開催すること、役員を年番で本会が引き受けたことが決まりました。

交流行事は、五日の「大名庭園の暮らしと文化」のテーマでのシンポジウムと懇親会、六日の岡

山後楽園の散策と能楽堂での能の鑑賞、史跡めぐりツアーなどのエクスカーションと多彩なものでした。

シンポジウムでは大槻副会長が湊黄門様とともに偕楽園公園の概要と街づくりの展望を語りました。懇親会のガイドコンテストでは、参加した黄門漫遊一座のメンバーと他の有志が偕楽園の魅力と見どころを紹介し、喝采を浴びたことは言うまでもありません。



岡山

ジオラマ風に造り、その一角に屋敷や能舞台を配置した庭園で、自然を活かし変化に富んだ偕楽園と対照的な印象を受けました。

二日目の記念講義神原邦男氏の「大名庭園の生活と文化」、熊倉功夫氏の「林原コレクションと能について」及び能舞台開設三〇〇年記念の能・狂言は、文化に活路を見出した岡山池田家ならではものでした。

これからの行事

本会の行事は「水戸市報」や新聞各紙などの行事案内に掲載されるよう努力していますが、個別のご案内は経費の都合上行つておりません。お問い合わせは葉書あるいはファックスで連絡担当者までご連絡ください。

初夏の偕楽園ウォーキング

四季折々の姿を示す偕楽園。今年は、つつじまつりのころの偕楽園の魅力を探して歩きます。

・五月十八日(日)
時間 午前九時～十二時
集合 八時四十分

・偕楽園公園センター(護国神社前)
小雨決行・悪天候のときは中止
連絡担当：川上 清

〒314143 水戸市大塚町九九三一七
○二九一一五二一三二四六
Fax

偕楽園梅で昔梅干を作る

偕楽園の梅でこだわりの塩のみで漬けるプロ直伝の梅干をあなたの手で作つてみませんか。

・期日未定(六月十三日頃予定)
・住所：渡里町一八〇〇
・十四時 根本漬物(株)集合
・TEL二二一ー六一五三

・定員：三十名(会員・募金協力者限
定)先着順
・参加費：無料(会員負担)、容器代
一〇〇円
・申込方法：はがき又はファックスにて
住所・氏名・電話番号・偕楽園梅干と明記。

- ・申込締切：六月四日
- ・申込先：川上 清
- 〒314143 水戸市大塚町九九三一七
- 二九一一五二一三二四六
- Fax

大名庭園民間交流協議会 水戸大会

大会テーマ／大名庭園と茶の湯文化

五庭園による民間交流会を、今年度は本会が担当することになりました。「水戸の秋まつり」に合わせて九月十四十五日に水戸で開催します。

◆ 会員の皆様の御参加をお願いします。
◆ 九月十四日(日)中秋の名月

第一部 総会
十四時十分～十六時 県立歴史館

講堂 テーマをめぐる各庭園の報告と討論

第二部 野点茶会(秋まつり行事)参加
十六時十五分～十八時 偕楽園

第三部 交流懇親会
十八時三十分～二十時三十分

三の丸ホテル
出し物「お国自慢かくし芸大会

◆ 九月十五日(月)
○八時三十分～朝の弘道館散策

第四部 講演「大名庭園と茶の湯文化」
十時～十二時 県立図書館講堂

講師 熊倉 功夫氏

○エクスカーション

水戸市観光案内
笠間稲荷神社参拝と県立陶芸美術館

偕楽園公園ウォーキングガイド
連絡担当：湊 正雄

〒310845 水戸市吉沢町二二二二
○二九一一四七一〇四三八
Fax

この大会は十一月に行われる第二十三回国民文化祭の協賛行事として県と市の協賛を得て行なわれます。

平成梅林整備推進事業

苗畑の管理

県から提供していただいた苗畑に植えた三百本の苗木を成木に育つまで会が管理します。必要な作業は除草、薬剤散布、施肥、剪定など多数あります。専門家でないと困難な作業を県や業者に依頼するので、会は当面除草作業を中心に行います。梅ボランティアによる除草作業など次回は六月に予定日程はホームページにて通知

・朝九時 苗畑集合
・小雨決行・悪天候のときは延期
・参加者には、次回以降日程等を連絡します。専門技能のある人は、隨時他の作業も実施します。

・連絡担当：和田 祐之介

・〒310053 水戸市末広町二二一〇祐月本店内
○二九一一三三二一一一六
Fax

募金事業

梅苗の購入資金は集まりましたが、定植するまでの十年近くに及ぶ苗畑の管理と定植に向けての準備には多額の費用が必要です。そのため「平成梅林に移植する苗木の購入・育成・移植費用を募金でまかなう」との募金の主旨を生かし、今後も募金活動を継続します。

第一回植樹祭(予告)

二月に接ぎ植した梅の苗木を苗畑に植樹します。平成梅林整備二年目の始まりです。

- ・平成二十一年二月(期日未定)
- ・場所 苗畑(好文橋北)
- ・時間 未定

役員名簿

平成梅林整備推進委員長	
会長	和田 祐之介
副会長	小菅 次男・湊 正雄・大 槻 功・川上 清・仲田 光子・後藤 詮司
理事	会沢 伸一・浅川 きよ・安 齋 みつ・石森 佐子・伊藤 茂 大金 和夫・小貫 正雄・鹿熊 律 子・加倉井 巧・勝村 規子・久野 勝弥・黒沢 英宣・佐藤 典夫・鈴木 重文・高島 繁正・高柳 美智 子・田中 泰成・千葉 初雄・西宮 幸男・根岸 孝雄・松浦 勝也・澤 敦・渡邊 高志・渡辺 幸夫・八木 沢 正義・山野辺 寛・吉
監事	石島 弘之・木村 義明

平成梅林整備募金計画	
一 趣旨	
確かな品種の梅樹を育て、偕楽園公園内に平成梅林を整備する資金を募る	
一 事業	
梅苗木を購入育成し、偕楽園公園内に平成梅林に定植・管理する	
一 募金内容	
個人1口	2,000円
法人1口	10,000円